

人間の尊厳と自立支援

これからの介護のキーワードは「自立支援」「人権擁護」「自己選択」です。利用者の自主性と自律性を尊重して、身体介護だけではなく、心的介護ができる介護人材になるために、この科目を必修にしています。利用者の希望に配慮して、自己決定に基づく自律的生活を支援する介護福祉士を目指します。

多文化共生

我が国の介護現場には、多くの外国人の方々が既に働いています。また、今後、数十万人の海外の方々が介護現場で働くために日本にやってきます。そうした状況におけるリーダー的存在を養成するために、この科目を必修化して、全員が多文化の環境で働けるようになることを目指しています。

政治

介護も、医療も、その国々、その時々々の政治と無関係に存在することはありません。特に介護は、今後の国際化、介護保険の変更、行政の許認可等々、政治とかかわる部分が非常に大きいため、科目として政治を位置づけています。他の介護学科では見られないことですが、国際介護福祉のリーダーを養成するために履修を勧めています。

人間の理解とコミュニケーションの基礎

介護福祉のコミュニケーションは、利用者を対象とするものと、スタッフ間でのものの二種類があります。単に日本語を話せば通じるというのではなく、コミュニケーションにはスキルとタクティクスが必要とされます。心を動かす介護には良好なコミュニケーションが必要で、多職種のケアチームには相互理解を促進するコミュニケーションが不可欠です。その方法と利用の仕方について2年間で身につくように指導していきます。

こころとからだのしくみ

介護は医療系学科ではありませんが、人間のからだのしくみ（解剖生理学）と、心のしくみ（精神医学）を知ることは非常に重要な基本的学習に他なりません。本学科では、臨床経験豊富な医療者による講義と実技によって、体の造り（解剖学）と機能（生理学）について深く学び、その知識を活かして実践できる介護福祉士を目指します。